

沖縄県伊平屋村島尻方言

當山 奈那・目差 尚太

1 沖縄県伊平屋村島尻の概要

伊平屋村は、沖縄島本部半島の北方海上約 40 キロメートルに位置し、伊平屋島・野甫島の二島からなる。南には無人島である具志川島をはさんで伊是名島がある。沖縄県の有人島のなかでは最北に位置し、島は北東から南西方向にのびる細長い形で、長さ 14 キロメートル、最大幅約 3 キロメートル、面積 20,66 平方キロメートルである。

島の骨格をなす山地、丘陵地は島軸に沿って北東から南西方向にならび、5 つほどの山塊にわかれている。このため、島を洋上から望むと、複数の島々が連なる列島のようにみえる。山塊を構成する主要地質は琉球石灰岩ではなく、中生代、古生代のチャートと中生代の砂岩頁岩互層である。山塊間には比較的広い沖積低地が分布し、稲作を支える地形的基盤をなしてきた。

伊平屋島の集落は東海岸に立地し、北から田名、前泊、我喜屋、島尻の 4 つからなる。島尻は伊平屋島のなかで一番南西に位置する集落であり、野甫島と伊平屋島とは 1979 年（昭和 54 年）に架橋された 680 メートルの野甫大橋でつながっている。

平成 29（2017）年 10 月時点での伊平屋村全体の実人口は 1255 人（593 戸）である。

2 伊平屋村島尻方言の概要

島尻方言とは、ここでは、伊平屋村島尻地区で話されている地域言語のことをさす。伊平屋村島尻の方言は、UNESCO の Atlas of the World's language in Danger にあげられた国頭語のなかの一つの下位方言である。国頭語は、UNESCO のリストによると、「危険」と判定されている。

伊平屋方言は、国頭語（沖縄北部沖永良部与論諸方言）の下位言語の山原方言に属する。音韻的には、北山原方言と p 音を保持せず、hw や h に移行している。また、喉頭音化した子音も失いつつある。また、k は h に変化しているが、*e と結合する k は h にはならない。伊是名方言と共通する特徴として、kui（首）のように、語中の b が w に変化し、さらに消失する傾向があげられる。

琉球諸語には、現代日本語のシ中止形、シテ中止形に相当する形式がそれぞれあらわれるが、伊平屋、伊是名方言にはシ中止形にʔaN（有り）が融合したシアリ中止形がある。例えば、june:（読んで）、hue:（降って）など。シアリ中止形は、琉球古典語（オモロ語）と現代首里方言も有している。ただし、古典琉球語と現代首里方言は、シ中止形、シテ中止形、シアリ中止形のみつつの中止形が併存しているのに対して、伊平屋方言は、シ中止形とシアリ中止形は存在するが、シテ中止形が存在していない。さらに、古典琉球語と現

代首里方言のシアリ中止形は、中止的な述語として複文で使用され、先行後続の関係をあらわすが、伊平屋方言や伊是名方言のシアリ中止形は、複文の述語になるだけではなく、シアリ中止形にさらに存在動詞を融合させて、継続相をつくるなど、形つくりの要素になることができ、生産的といえる。例) ?nama ?ami hujo:N. (今 雨が 降っている。)

3 人口構成からみた伊平屋方言

伊平屋島の2015年の年代別人口（総務省国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所）は次の表のとおりである。

75歳以上	198人
70歳～74歳	53人
60歳～69歳	189人
50歳～59歳	216人
21歳～49歳	322人
20歳以下	260人
計	1238人

複数の人の話から、伝統的な伊平屋方言を話すことのできる方は60歳以上の方であると思われる。40代～50代まではある程度の会話が可能だが、それ以下の世代になると、聞き取ることはできるが、話すことはできないだろうとのことであった。この話と上の表をもとに伊平屋方言のだいたいの話者数は60歳以上の440人と予想できる。1949年（昭和24年）に名護高等学校伊平屋分校が伊平屋中等学校敷地に併置されたが、1957年（昭和32年）に廃止された。移行、中学校卒業後は進学のために伊平屋島を出なければならず、子どもの進学を期に家族で沖縄島へ引っ越す例も少なくない。また島に戻ってくる人は少ないとのことである。

4 共通語教育と方言教育

昭和33年生の伊平屋出身の方によると、小学校の頃は方言札が使用されており、児童生徒たちが相互に監視し、方言を話した人に札を渡したとのことである。方言札は木札で、「方言札」と書かれており、首にかけるものだった。所持者に掃除や体罰などの罰は特になかった。校内では共通語を使うようにしたが、家に帰ると家族とは方言で会話をした。また、教師が「です・ます・である」ことばを使うように共通語の指導していたが、このように話すと居心地が悪かったため、「お前が言ったであるサヘー」「わかるがダールけどさ」のように伊平屋のことばっぽく話していた時期があり、このような伊平屋方言の影響を受けた共通語を「ダルサヘことば」とよんでいたと述べていた方もいた。

5 地域コミュニティにおける方言保存活動

小中学校には民俗伝統文化を学習する日が月に1時間設けられており、工芸、料理、舞踊、方言、三線のなかからひとつ選んで学習することができる。また、年に1度の「伝統文化学習発表会」にて、小中学生が日ごろの学習の成果を島民に報告する機会がある。ただし、方言に関しては、現在、首里那覇方言のみの学習であり、伝統文化学習発表会では生徒が方言で司会をするが、それも首里方言とのことである。

6 方言資料の作成

一つの言語体系としての伊平屋方言を包括的に記述した研究や資料などはこれまでほとんどなく、琉球列島の広域にわたる諸方言について、音韻（アクセント含む）・語彙・活用についての調査がなされた研究のなかで伊平屋方言がとりあげられることが多かった。このなかでも、名護市史編さん委員会（2006）『名護市史本編・10 言語』では、沖縄北部方言内の差異を踏まえた伊平屋・伊是名方言の特徴が述べられており、その位置づけがなされている。

2016年から当委託事業のプロジェクトが始まり、これまで、平良・備瀬（2017）「沖縄県伊平屋方言の名詞の格体系」、崎山・上門（2017）「伊平屋島田名方言の動詞の活用」、當山奈那（2017）「伊平屋島島尻方言のアスペクト・テンス・モダリティ」を報告している。名護市史編さん委員会（2006）や2節で示したように、当該方言は沖縄北部内でも特徴的な音韻現象や文法現象がみられる。できる限り詳細な記述やより多くの言語記録を行うことが望ましい。

なお、本報告のデータは、全て伊平屋村島尻出身／在住の話者2名、H・N（S33年生、男性）、H・S（S7生、男性）への面接調査によるものである。

7 音素表

調査期間で得られた単語数が少ないため、全ての音素は網羅しきれなかった。語頭・語中などの音環境の制限なども詳しく確認することができなかったが、収集した用例を用いて一度整理しておく。

'あ [ʔa]	[ʔadza]	'あざ	(ほくろ)
	[ʔanra:]	'あんらー	(油)
'い [ʔi]	[ʔi:bi]	'いーび	(指)
	[ʔindʒi:]	'いんじー	(とげ)
い [i~ji]	[inaɡu]	いなぐ	(女)
	[kui]	くい	(首)
'う [ʔu]	[ʔutuge:]	'うとうげー	(あご)

	[ʔuranra:]	うらんらー	(外国人)
う [u~wu]	[u:ɟi]	うーじ	(さとうきび)
	[kiui]	きうい	(煙)
'え [ʔe]	(未確認)		
え～いえ [e~je]	[je:go]	いえーご	(英語)
	[ʔa:je]	あーいえ	(いや・感動詞)
'お [ʔo]	(未確認)		
か [ka]	[ka:]	かー	(皮)
	[ʃikara]	ちから	(力)
		(語末の例は未確認)	
き [ki]	[ki:]	きー	(毛)
		(語中の例は未確認)	
	[taki:]	たきー	(背丈)
く [ku]	[kuʃi]	くち	(口)
	[ti:ɟukumi]	ていーじゅくみ	(こぶし)
	[tabaku]	たばく	(タバコ)
け [ke]	[kenna]	けんな	(腕)
		(語中・語末の例は未確認)	
こ [ko]	(未確認)		
さ [sa]	[sa:]	さー	(足)
	[sa:gi]	さーぎ	(白髪)
		(語中の例は未確認)	
	[kusa:]	くさー	(草)
し [ʃi]	[ʃitʃa]	しちや	(下)
	[ʃinʃinge:]	ちんしんげー	(ひざ)
	[na:ʃi]	なーし	(朝食)
す [su~ʃu]	[sunui]	すぬい	(もずく)
	[kusui]	くすい	(薬)
	[tembusu]	てんぶす	(へそ)
せ [se~ʃe]	(未確認)		
そ [so~ʃo]	[so:ɟi]	そーじ	(掃除)
		(語中・語末の例は未確認)	
た [ta]	[taki:]	たきー	(背丈)
	[hataki]	はたき	(畑)
	[manta]	まんた	(額)
ち [ʃi]	[ʃi:]	ちー	(血)
	[ʔitʃika]	いちか	(いつか・副詞)
	[kuʃi]	くち	(口)
つ [tsu]	(語頭・語中の該当例確認できず)		
	[nimutsu]	にむつ	(荷物)

て[te]	[<u>t</u> embusu]	<u>てんぶす</u>	(へそ)
			(語中・語末の該当例確認できず)
と[to]	[<u>t</u> o:]	<u>とー</u>	(はい・感動詞)
			(語中の該当例確認できず)
	[dʒo: <u>t</u> o:]	じょー <u>とー</u>	(一番)
てい[ti]	[<u>t</u> i:]	<u>ていー</u>	(手)
			(語中・語末の該当例確認できず)
とう[tu]			(語頭の該当例確認できず)
	[ʔ <u>t</u> utuge:]	う <u>と</u> うげー	(あご)
	[j <u>a</u> matu:]	やま <u>と</u> うー	(本土)
だ[da]	[<u>d</u> a:]	<u>だー</u>	(どこ)
			(語中・語末の該当例確認できず)
でい[di]			(未確認)
どう[du]	[<u>d</u> u:]	<u>ど</u> うー	(体)
			(語中・語末の該当例確認できず)
で[de]			(未確認)
ど[do]			(未確認)
な[na]	[<u>n</u> a:fi]	<u>な</u> ーし	(朝食)
	[i <u>n</u> agu]	い <u>な</u> ぐ	(女)
	[<u>h</u> ana]	<u>は</u> な	(鼻)
に[ni]	[<u>n</u> itʃiN]	<u>に</u> ちん	(二斤)
			(語中の該当例確認できず)
	[sawaki <u>ɸ</u> u: <u>n</u> i]	さわき <u>ふ</u> ー <u>に</u>	(あばら骨)
ぬ[nu]	[<u>n</u> uʃi]	<u>ぬ</u> ち	(命)
	[ʔi <u>n</u> numi:]	い <u>ん</u> ぬみー	(おでき)
	[<u>m</u> unu]	む <u>ぬ</u>	(ごはん)
ね[ne]	[<u>n</u> e:]	<u>ね</u> ー	(根)
	[<u>ɸ</u> u <u>n</u> e:ra]	ふ <u>ね</u> ーら	(この前)
	[<u>t</u> igane]	てい <u>が</u> ね	(手伝い)
の[no]	[<u>n</u> o:dʒi]	<u>の</u> ーじ	(つむじ)
			(語中・語末の該当例確認できず)
は[ha]	[<u>h</u> anadʒi]	<u>は</u> なじ	(頭)
			(語中の該当例確認できず)
	[<u>n</u> aha]	<u>な</u> は	(中)
ひ[hi]	[<u>h</u> i:dʒi]	<u>ひ</u> じ	(肘)
	[<u>n</u> a: <u>h</u> iN]	なー <u>ひ</u> ん	(もっと・副詞)
			(語末の例確認できず)
ふ[ɸu]	[<u>ɸ</u> u: <u>n</u> i]	<u>ふ</u> ーに	(骨)
	[ju: <u>ɸ</u> uru]	ゆー <u>ふ</u> る	(おふろ)
	[<u>t</u> o: <u>ɸ</u> u]	とー <u>ふ</u>	(とうふ)

へ[he]	(未確認)		
ほ[ho]	(未確認)		
ば[ba]	(語頭・語末の該当例未確認)		
	[tabaku]	た <u>ば</u> く	(タバコ)
び[bi]	(語頭・語中の該当例未確認)		
	[ʔi:bi]	'いー <u>び</u>	(指)
ぶ[bu]	[bundʒira]	<u>ぶ</u> んじら	(棒)
	[tembusu]	てん <u>ぶ</u> す	(へそ)
	[kubu]	く <u>ぶ</u>	(こぶ)
べ[be]	(語頭・語中の該当例未確認)		
	[ʃimbe:]	ちん <u>べ</u> ー	(つば)
ぼ[bo]	(未確認)		
ぱ[pa]	(未確認)		
ぴ[pi]	(未確認)		
ぷ[pu]	(未確認)		
ぺ[pe]	(未確認)		
ぽ[po]	[ʔippoN]	い <u>っ</u> ぽん	(一本)
'ま [ʔma]	[ʔma:]	' <u>ま</u> ー	(馬)
ま[ma]	[maju]	<u>ま</u> ゆ	(眉)
		(語中の該当例未確認)	
	[ʔamma:]	'あん <u>ま</u> ー	(母)
み[mi]	[mimi]	<u>み</u> み	(耳)
	[namira]	な <u>み</u> ら	(涙)
	[ʃimi]	ち <u>み</u>	(つめ)
む[mu]	[munu]	<u>む</u> ぬ	(ごはん)
	[tamun]	た <u>む</u> ん	(薪)
	[ʃimu]	ち <u>む</u>	(肝)
め[me]	[me:]	<u>め</u> ー	(米)
		(語中の該当例未確認)	
	[jamme:]	やん <u>め</u> ー	(病気)
も[mo]	(未確認)		
ら[ra]	(語頭の該当例未確認)		
	[ʔuranra:]	'う <u>ら</u> んらー	(外国人)
	[ʃira]	ち <u>ら</u>	(顔)
り[ri]	(語頭・語中の例確認できず)		
	[gammari]	が <u>ん</u> まり	(いたずら)
る[ru]	(未確認)		
れ[re]	[jure:]	ゆ <u>れ</u> ー	(よだれ)
ろ[ro]	(未確認)		
が[ga]	[ga:tui]	<u>が</u> ーとうい	(シラサギ)

	[hatʃiqatʃi]	はちが <u>ち</u>	(八月)
	[kega]	け <u>が</u>	(けが)
ぎ [gi]		(未確認)	
ぐ [gu]		(語頭・語末の例未確認)	
	[waraquʃi]	わら <u>ぐ</u> ち	(ぞうり)
げ [ge]		(語頭の例未確認)	
	[mugen]	む <u>げ</u> ん	(叱る・動詞)
	[ʔutuge:]	うとう <u>げ</u> ー	(あご)
ご [go]		(未確認)	
ざ [ɟa]		(語頭・語末の該当例未確認)	
	[ʔaɟa]	'あ <u>ざ</u>	(ほくろ)
じ [ɟʃi]		(語頭の該当例未確認)	
	[bundʒira]	ぶん <u>じ</u> ら	(棒)
	[ʃidʒi:]	ふい <u>じ</u> ー	(髭)
ず [ɟu]		(語頭・語中の該当例未確認)	
	[ʃu:ɟu]	ふー <u>ず</u>	(去年)
ぜ [ɟe]		(未確認)	
ぞ [ɟo]	[ɟo:]	<u>ぞ</u> ー	(家の前の道)
		(語中・語末の該当例未確認)	
'や [ʔja]	[ʔja:]	' <u>や</u> ー	(お前)
'ゆ [ʔju]	[ʔju:]	' <u>ゆ</u> ー	(魚)
'よ [ʔjo]		(未確認)	
や [ja]	[jamme:]	<u>や</u> んめー	(病気)
		(語中の該当例未確認)	
	[haja]	は <u>や</u>	(か <u>や</u>)
ゆ [ju]	[ju:]	<u>ゆ</u> ー	(よく・副詞)
	[jure:]	<u>ゆ</u> れー	(よだれ)
	[majju]	ま <u>ゆ</u>	(眉)
よ [jo]		(語頭・語末の該当例未確認)	
	[gajo:ɟʒa]	が <u>よ</u> ーじゃ	(ガヨウ山)
'わ [ʔwa]	[ʔwa:]	' <u>わ</u> ー	(豚)
'うい [ʔwi]		(未確認)	
'うえ [ʔwe]		(未確認)	
わ [wa]	[wata]	<u>わ</u> た	(腹)
	[sawakiʃu:ni]	さ <u>わ</u> きふーに	(あばら骨)
	[ʃiwa]	し <u>わ</u>	(唇)
うい [wi]		(未確認)	
うえ [we]		(未確認)	
ぎゆ [gju]	[ʔagju:rai]	'あ <u>ぎ</u> ゆーらい	(感嘆詞)

	(語頭・語末の例未確認)		
しゅ [ʃu~su]	[ʃu:]	しゅー	(父)
しえ [ʃe]	(未確認)		
しよ [ʃo]	(未確認)		
じゃ [ɟʒa]	(語頭の該当例未確認)		
	[undʒami]	うん <u>じゃ</u> み	(海神祭)
	[hadʒa:]	は <u>じゃ</u> ー	(におい)
じゅ [ɟʒu]	(語頭の該当例未確認)		
	[ti:ɟʒukumi]	ていー <u>じゅ</u> くみ	(こぶし)
	[kiɟʒu:]	き <u>じゅ</u> ー	(傷)
じよ [ɟʒo]	[ɟʒo:to:]	<u>じよ</u> ーとー	(一番)
	(語中・語末の例未確認)		
ちゃ [tʃa]	[tʃassa]	<u>ちゃ</u> っさ	(いくつ)
	[tintʃama]	ていん <u>ちゃ</u> ま	(いたずら)
	[ʔaʃa:]	'あ <u>ちゃ</u> ー	(明日)
ちゅ [tʃu]	[tʃu:]	<u>ちゅ</u> ー	(人)
	(語中の該当例未確認)		
	[ja:tʃu:]	やー <u>ちゅ</u> ー	(お灸)
ちよ [tʃo]	[tʃo:re:]	<u>ちよ</u> ーれー	(兄弟)
	(語中の該当例未確認)		
	[gantʃo:]	がん <u>ちよ</u> ー	(めがね)
くわ [kwa]	[kwa:ʃi]	<u>くわ</u> ーし	(菓子)
くい [kwi]	(未確認)		
くえ [kwe]	(未確認)		
ぐわ [gwa]	(未確認)		
ぐい [gwi]	(未確認)		
ぐえ [gwe]	(未確認)		
ふあ [ɸa]	[ɸa:]	<u>ふあ</u> ー	(歯)
	[ni:ɸara:]	にー <u>ふあ</u> らー	(胸)
	(語末の該当例未確認)		
ふい [ɸi]	[ɸiɟʒi:]	<u>ふい</u> じー	(髭)
	(語中・語末の該当例未確認)		
ふえ [ɸe]	(未確認)		
'ん [ʔŋ~ʔm]	(未確認)		
ん [n~m~ŋ~N]	(語頭の該当例未確認)		
	[tembusu]	て <u>ん</u> ぶす	(へそ)
	[manta]	ま <u>ん</u> た	(額)
	[tʃinʃiŋge:]	ちんし <u>ん</u> げー	(ひざ)
	[tamun]	たむ <u>ん</u>	(薪)
っ [k]	(未確認)		

[p]	[ʔippon]	い <u>っ</u> ぽん	(一本)
[s]	[tʃassa]	ちや <u>っ</u> さ	(いくつ)

別紙に一覧表を掲載する。()内は数が少ないもの。

	a	i	u	e	o	a	u	e	o	a	i	e
ʔ	あ [ʔa] /ʔa/	い [ʔi] /ʔi/	う [ʔu] /ʔu/			や [ʔja] /ʔja/	ゆ [ʔju] /ʔju/			わ [ʔwa] /ʔwa/		
		い [i~ji] /i/	う [u~wu] /u/	え [e~je] /e/		や [ja] /ja/	ゆ [ju] /ju/		よ [jo] /jo/	わ [wa] /wa/		
k	か [ka] /ka/	き [ki] /ki/	く [ku] /ku/	け [ke] /ke/						くわ [kwa] /kwa/		
g	が [ga] /ga/		ぐ [gu] /gu/	げ [ge] /ge/			ぎゆ [giu] /giu/					
s	さ [sa~sa] /sa/	し [ʃi] /si/	す [su~su] /su/		そ [so~so] /so/							
z	ざ [dza] /za/	じ [ʃi] /zi/	ず [dzu] /zu/		ぞ [dzo~ʃo] /zo/	じゃ [ʃa] /zja/	じゆ [ʃu] /zju/		じよ [ʃo] /zjo/			
t	た [ta] /ta/	てい [ti] /ti/	とう [tu] /tu/	て [te] /te/	と [to] /to/							
c		ち [ʃi] /ci/	つ [tsu] /cu/			ちや [ʃa] /cja/	ちゆ [ʃu] /cju/		ちよ [ʃo] /cjo/			
d	だ [da] /da/		どう [du] /du/									
n	な [na] /na/	に [ni] /ni/	ぬ [nu] /nu/	ね [ne] /ne/	の [no] /no/							
h	は [ha] /ha/	ひ [Hi] /hi/	ふ [ɸu] /hu/							ふあ [ɸa] /hwa/	ふい [ɸi] /hwi/	
b	ば [ba] /ba/	び [bi] /bi/	ぶ [bu] /bu/	べ [be] /be/								
p					(ぽ) [po] /po/							
m	ま [ma] /ma/	み [mi] /mi/	む [mu] /mu/	め [me] /me/								
ʔm	ま [ʔma] /ʔma/											
r	ら [ra] /ra/	り [ri] /ri/		れ [re] /re/								

		ん [m, n, ŋ, N] /N/	っ [p, k, s] /Q/
--	--	--------------------------	-----------------------

8 名詞の格＝とりたて

用例は簡易的な音声表記を用いる。問題とする文の部分は下線_____で示し、格形式やとりたて助辞は「= (ダブルハイフン)」で示す。格やとりたてについての考え方は鈴木重幸 (1972) による。

8.1 島尻方言の名詞の格形式一覧

格とは、「名詞が文や連語のなかで他の単語に対してとることがら上の関係の違いをあらわす文法的なカテゴリー」である。島尻方言には、ハダカ格、ga 格、nu 格、ke:格、ne:格、he:格、hara 格、mari 格、tu 格、kaN 格の 10 の格形式がある。これらは、形式面からの名付けである。それぞれの格形式をとった名詞の文法的な意味をまとめると次の表のようになる。

表 1 島尻方言の形式と意味

形式	意味	用例
ハダカ格	動作や状態の持ち主	tʃu:ja <u>wan</u> itʃunahan. 今日は <u>おれは</u> 忙しい。
	対象	dʒira:=ga bundʒira=ne <u>sanra:</u> tatatʃan. 次郎= <u>が</u> 棒= <u>で</u> <u>三郎</u> を 叩いた。
	側面	anu <u>taki</u> takahanu, makurunu tʃu:ja da:nu tʃu:ga. あの <u>背が</u> 高くて、真っ黒の 人は どのの 人か。
	所有者	ane, <u>wa:</u> kutsu=ja da:=ne ajo:. あれ、 <u>俺の</u> 靴= <u>は</u> どこ= <u>に</u> あるの？
	属性	<u>watta:</u> tamme:=ja saki=N tabuku=N numan. <u>うちの</u> 爺さん= <u>は</u> 酒= <u>も</u> 煙草= <u>も</u> 飲まない。
	うつりうごく空間	juru <u>mitʃi</u> attsu:nu tutʃi=ja habu=ke ki: tʃikiri=jo:. 夜 <u>道</u> を 歩く 時= <u>は</u> ハブ= <u>に</u> 注意しなさい= <u>よ</u> 。
	動作や状態がなりたつ時	amma:=ja <u>atsa:</u> jamatu=ke: taro=ke: itʃaŋga itʃu=ntʃa:. 母さん= <u>は</u> <u>明日</u> 東京= <u>へ</u> 息子= <u>に</u> 会いに 行く <u>って</u> 。
	呼びかけ	<u>taro:</u> , attʃiŋga=ru indzuri. <u>太郎</u> 、歩きに 行く <u>のか</u> 。
述語の要素	aqju:rai, tabaku=nu suigara=hara <u>kadʒi</u> natantʃa:. アギューライ 煙草= <u>の</u> 吸殻= <u>から</u> <u>火事</u> に なった <u>そう</u> だ。	
ga 格	動作や状態の持ち主	un, jakuba=ke <u>wan=qa</u> itʃu=sa. うん、役場= <u>へ</u> <u>俺</u> = <u>が</u> 行く= <u>よ</u> 。
	対象	wan=ja irabutʃa=:nu <u>safimi=qa</u> kamiʃusan. 俺= <u>は</u> イラブチャー= <u>の</u> <u>刺身</u> = <u>が</u> 食 <u>べ</u> たい。
	側面	taro:ja <u>mi:=qa</u> su:=tu ju ni:jon. 太郎は <u>目</u> = <u>が</u> お父さん= <u>と</u> よく 似 <u>て</u> る。
	所有者	unu kutsu=ja <u>taro:=qa</u> kutsuru jairui:. この 靴= <u>は</u> <u>太郎</u> = <u>の</u> 靴 <u>な</u> のか？
nu	所有者	aqju:rai, <u>kadzuko=nu</u> ja:=hara kiui=ga idʒijon=ro:. アギューライ、 <u>カズコ</u> = <u>の</u> 家= <u>から</u> 煙= <u>が</u> 出 <u>て</u> る= <u>よ</u> 。

格	属性	anu taki takahanu, <u>makuru=nu</u> tfu:=ja da:=nu tfu:ga. あの 目が 大きくて、 <u>真っ黒=の</u> 人=は どこ=の 人か？
ke: 格	あい手	mitʃi=ne ʃo:gakko:=nu <u>ko:tʃo:sense:=ke</u> itʃatan. 道=で 小学校=の <u>校長先生=に</u> 会った。
	態度の対象	bjoin=ne ware:=ga <u>tʃu:ʃa=ke:</u> uturaha ʃu:tan. 病院=で 子供=が <u>注射=に</u> 怯えて いた。
	関係の相手=対象	hanako=ja tʃira=ga <u>amma:=ke</u> ju: ni:jon. 花子=は 顔=が <u>母さん=に</u> よく 似てる。
	くっつけるところ	tamme:=ga <u>hanadzɪ=ke</u> sa:dʒi matʃon. お爺さんが <u>頭=に</u> タオルを 巻いてる。
	ゆくさき	watta: su:=ja kisa <u>hataki=ke:</u> ndʒan. 私の 父=は もう <u>畑=へ</u> 行った。
	ありか	<u>ko:jen=ke</u> uitan=ro:.. <u>公園=に</u> いた=よ。
	原因	dʒira:ja <u>ami=ke</u> indaje:, ja:=ke ke: tʃan. 次郎は <u>雨=に</u> 濡れて、家=へ 帰って 来た。
述語の要素	senkjo=ne su:=ga <u>kutʃon=ke</u> natan. 選挙=で 父=が <u>区長=に</u> なった。	
ne: 格	とりつけるところ	agju:rai, <u>ja:nu ui=ne:</u> u:ru ʃuʃo:sa:.. アギューライ 家の <u>上=に</u> 布団を 干してるぞ。
	受身の相手=動作の主体	dʒira:ja tintʃama he:, <u>tamme:=ne</u> megeraritan. 次郎は いたずらを して、 <u>爺さん=に</u> 叱られた。
	材料	tamme:ga <u>wara=ne</u> dzo:ri anan. お爺さんが <u>藁=で</u> 草履を 編んだ。
	道具	a:je, kabike <u>empitsu=ne:ru</u> katʃanro:.. いや、紙に <u>鉛筆=で</u> 書いたよ。
	手段	ma:mari <u>nu:=ne</u> tʃa:.. itʃantu he: tʃan. ここまで <u>何=で</u> 来たの？ どう やって 来たの？
	ありか	<u>gajo:dʒa=neja</u> inoʃiʃiga untero:.. <u>ガヨウ山=には</u> イノシシが いるそうだよ。
	動作や状態がなりたつ場所	bjoin=ne ware:ga tʃu:ʃake: uturaha ʃu:tan. 病院=で 子供が 注射に 怯えていた。
	動作や状態がなりたつ時	<u>atʃigatʃi=ne:</u> ke: tʃuntʃa:.. <u>八月=に</u> 帰って 来るそうだ。
原因	dʒira:ja <u>ami=ne</u> indaje:, ja:ke ke: tʃan. 次郎は <u>雨=に</u> 濡れて、家へ 帰って 来た。	
he: 格	材料	tamme:=ga <u>wara=he:</u> dzo:ri anan. お爺さん=が <u>藁=で</u> 草履を 編んだ。
	道具	unu je: <u>borupen=he:ru</u> katʃi. その 絵 <u>ボールペン=で</u> 書いたの？
	手段	arija ki:sa <u>takufi=he:</u> tʃan. あいつは さっき <u>タクシー=で</u> 来たよ。

	形態=量	nimutsuga umbahanu, t'ei=he: mutje ndʒan. 荷物が 重たくて、 <u>二人=で</u> 持って 行った。
	原因	agju:rai, tabakunu hi:=he: kadʒi natantʃa:. アギューライ、 <u>煙草の 火=で</u> 火事に なったそうだ。
hara 格	出所	ko:tʃo:fɪnʃiga basu=hara urije: tʃan. 校長先生が <u>バス=から</u> 降りて きた。
	とりはずすところ	ki:ja anu jama=kara tuje: tʃanro:. 木は あの <u>山=から</u> 取って 来たよ。
	相手	hanʃi:=kara/hara otʃidama tutan. <u>お婆さん=から</u> お年玉を もらった。
	材料	to:ɸuja ma:mi=karanu tsukunro:. 豆腐は <u>大豆=から</u> 作るよ。
	手段	arija ki:sa takuʃi=kara/hara tʃan. あいつは さっき <u>タクシー=で</u> 来た。
	出発場所	ma:ga dzo:=kara/hara ja:nu nahake je:tan. ネコが <u>外=から</u> 家の中へ 入った。
	うつりうごく場所	maʃʃira ga:tuiga tin=hara tuno:sa. 真っ白な 野鳥が <u>空=を</u> 飛んでるぞ。
	動作や状態がはじまる時	su:ja atʃa:=kara kutʃo:nu ʃigutu ɸun. 父は <u>明日=から</u> 区長の 仕事を する。
	原因	agju:rai, tabakunu hi:=hararu kadʒi natantʃa:. アギューライ、 <u>煙草の 火=から</u> 火事に なったって。
mari 格	到達場所	iheja=marija ɸunikaranu tʃi:. <u>伊平屋=までは</u> 船で 来たのか？
	動作や状態がおわる時	dʒikanga aitu, godʒi=mari terebi ma:ni. 時間が あるから、 <u>5時=まで</u> テレビを 見ないか。
tu 格	相手	dʒira:ja sanra:=tu o:tan. 次郎は <u>三郎=と</u> 喧嘩した。
	仲間	kudʒimari tara:=tu ko:miŋkanne uitan. 9時まで <u>太郎=と</u> 公民館に いたよ。
kan 格	比較の対象	tʃu:ja kinnu=kan hadʒi tʃu:han. 今日は <u>昨日=より</u> 風が つよい。

8.1.1 ハダカ格

ハダカ格は、格助辞のくっついていない単語の文法的な形である。島尻方言において、ハダカ格の名詞は、主語、補語、連体修飾語、状況語、独立語として働きながら、それぞれの機能に合わせて、〈動作や状態の持ち主〉、〈対象〉、〈側面〉、〈所有者〉、〈属性〉、〈うつりうごく空間〉、〈動作や状態がなりたつ時〉、〈よびかけ〉といった文法的な意味を表す。

8.1.1.1 〈動作や状態の持ち主〉

ハダカ格の人代名詞、身体名詞、現象名詞が主語として働き、〈動作や状態の持ち主〉を表す。

- (1) nuri ha:tʃe, midʒi ɸusan.
喉 乾いて 水が 欲しい。
- (2) ammajo:rai, ami ɸuje; attʃiguruhanu=ja.
あ、 雨 降って。歩きづらい=ね。
- (3) amma ummi.
お母さん いる？
- (4) tʃu:ja wan itʃunahan.
今日は おれ 忙しい。
- (5) tʃu:=ja kinnu=kan hadʒi tʃu:han=ja:.
今日=は 昨日=より 風 強い=ね。

8. 1. 1. 2 〈対象〉

ハダカ格の物名詞、人名詞が補語として働き、述語になる動詞によってさしだされる動作、活動の〈対象〉を表す。

〈ふれあいの対象〉

- (6) dʒira:=ga bundʒira=ne sanra: tatatʃan.
次郎=が 棒=で 三郎を 叩いた (殴った)。
- (7) amma:=kara sa:dʒi tuje:, du: ɸutʃan.
お母さん=から タオルを とって、 体を 拭いた。

〈とりはずしの対象〉

- (8) sa:ru=ga mikan=nu ki:=hara mi: tuitan.
サルが みかん=の 木=から 実を 取った。
- (9) tamme:=ja ʃikama=kara jama=ke tamun tunʒa indʒan.
爺さん=は 朝=から 山=へ 薪を 取りに 行った。

〈うっしかえの対象〉

- (10) uradza=kara kusui tui ɸun.
裏座=から 薬を 取って 来る。

〈とりつけの対象〉

- (11) tamme:=ga hanadʒi=ke sa:dʒi matʃon.
お爺さん=が 頭=に タオルを 巻いている。
- (12) marune:, haja=ke tʃiburu utʃan.
転んで、柱=に 頭を 打った。
- (13) agju:rai, ja:=nu ui=ne: u:ru ɸuʃo:sa:.
おい、家=の 上=に 布団を 干しているぞ。

〈言語活動の対象〉

- (14) wan=ja kinnu:=ja ʃimbun jumantan.
俺=は 昨日=は 新聞を 読まなかった。

〈やりもらいの対象〉

- (15) ?wa:=nu niku nitʃiN ko:je tʃe: turuhenri.
 豚=の 肉を 二斤 買って 来て くないか。
 (16) tara:=ja uttu:=ke kwa:ʃi wakkije: turutʃan.
 太郎=は 弟=に お菓子を 分けて あげた。
 (17) hanʃi:=kara otofidama tutan.
 お婆さん=から おとしだまを もらった。

〈知覚の対象〉

- (18) hanʃi:=ja nibandza:=ne tereʃi intʃe: attsun.
 婆さん=は 二番座=で テレビを 見て いる。
 (19) hariro:, u:mi intʃiga indʒumi.
 晴れたら、海を 見に 行こうか。

〈結果物〉

- (20) dʒira:=ja kabi:=ne tsuru tsukutan.
 次郎=は 紙=で 鶴を 作った。
 (21) tamme:=ga wara:=ne dzo:ri anan.
 お爺さん=が 藁=で 草履を 編んだ。

〈欲求の対象〉

- (22) nuri ha:tʃe, midʒi ʃusan.
 喉 乾いて、水が 欲しい。

〈能力の対象〉

- ハダカ格の物名詞が〈対象〉を表す場合は、他にも、述語動詞にさしだされる能力としての動作・表現活動の対象、言語活動、思考活動の対象など、〈能力の対象〉を表す。
 (23) tara:=ja je:go=nu ʃun jumiʃun.
 太郎=は 英語=の 本が 読める。
 (24) hanako:=ja iŋkaʃi:=kara sanʃin hitʃiʃun.
 花子=は 昔=から 三線が 弾ける。

8.1.1.3 側面

ハダカ格の名詞が主語にあらわされる人の部分などの〈側面〉を表す。

- (25) anu taki takahanu, makurunu tʃu:ja da:nu tʃu:ga.
 あの 背が 高くて、真っ黒の 人は どの 人か。

8.1.1.4 所有者

ハダカ格の人代名詞が連体修飾語として働き、あとに続く名詞の〈所有者〉を表す。

- (26) ane, wa: kutsuja da:ne ajo:.
 あれ、俺の 靴は どこに あるの？
 (27) A : ?ja: bo:ʃi:ja durugahe:.
お前の 帽子は どれだ？

B : uriru janro:.

それだよ。

- (28) unu kasa:ja: wa: munru janro:ja.
その 傘は 俺の 物だよ。

8.1.1.5 属性

ハダカ格の人代名詞が連体修飾語として働き、あとに続く名詞の〈属性〉を表す。

- (29) watta: tamme:ja sakin tabukun numan.
うちの 爺さんは 酒も 煙草も 飲まない。

8.1.1.6 うつりうごく空間

ハダカ格の空間名詞が状況語として働き、述語の移動動詞の動作がおこなわれる〈うつりうごく空間〉を表す。連体的つきそい文、時間的なつきそい文の中では、ハダカ格であらわれている。今後、その調査の必要がある。

- (30) juru mitfi attsu:nu tutfija habuke ki: tfikirijo:.
夜 道を 歩く 時は ハブに 注意しなさいよ。

〈経由〉

- (31) warabiga burokku tunuta.
子供が ブロック塀を 飛んだ (越えた)。

8.1.1.7 動作や状態がなりたつ時

ハダカ格の時間名詞が状況語として働き、〈動作や状態がなりたつ時〉を表す。

- (32) amma:ja atsa: jamatuke: taroke: itfanga itfuntfa:.
母さんは 明日 東京へ 息子に 会いに 行くって。
- (33) watta: ware:ja φu:dzu tfu:gakku:nu jinjinke natan.
俺達の 子供は 去年 中学校の 先生に なった。
- (34) φu:dzu amma:ke natan.
去年 お母さんに なった。
- (35) taruja itfi jamatuhara ke:tfi tfuntega.
太郎は いつ 本土から 帰って 来るって？

8.1.1.8 呼びかけ

ハダカ格の人名詞（固有名詞）が独立語として働き、聞き手への〈呼びかけ〉を表す。

- (36) taro: attfingaruru indzuri.
太郎、歩きに 行くのか

8.1.1.9 述語の要素

ハダカ格の名詞と natan(なった)などの単語が組み合わさって、連語述語の要素となる。

- (37) A : nu:hara kadzi natakaja.
何から 火事に なったかなあ。
- B : agju:rai, tabakunu suigarahara kadzi natantfa:.
アギューライ 煙草の 吸殻から 火事に なったそう。

8.1.2. ga 格

島尻方言の ga 格の名詞は、主語、補語、連体修飾語、状況語として働き、〈動作や状態の持ち主〉、〈対象〉、〈側面〉、〈所有者〉を表す。

8.1.2.1 動作や状態の持ち主

ga 格の名詞が主語として働く場合は、〈動作や状態の持ち主〉を表す。主語になれる名詞は、人名詞や物名詞や現象名詞など様々である。

- (38) un, jakubake wan=ga itfusa.
うん、役場へは 俺=が 行く。
- (39) dʒira:=ga bundʒirane sanra: tatatʃan.
次郎=が 棒で 三郎を 叩いた (殴った)。
- (40) ifa=ga indʒetʃa:nu kusui nuno:, no:njo:.
医者=が くれた 薬を 飲めば、 治るよ。
- (41) maʃʃira qa:tui=ga tinhara tuno:sa.
真っ白な シラサギ=が 空を 飛んでるぞ。
- (42) nimutsu=ga umbahanu, t'eihe: mutʃe ndʒan.
荷物=が 重たくて、二人で 持って 行った。
- (43) ane, ami=ga ɸu:je tʃan.
あ、 雨=が 降って きた。
- (44) tʃu:ja kinnukan hadʒi=ga tʃu:han.
今日は 昨日よりも 風=が 強い。
- (45) dʒikaŋ=ga aitu, godʒimari terebi ma:ni.
時間=が あるから、5時まで テレビを 見ようね。

8.1.2.2 対象

ga 格の物名詞などが補語として働き、述語になる態度動詞、欲求動詞、評価形容詞の〈対象〉を表す。

〈心が向かっていく対象〉

- (46) taro:ja sunui=ga ʃitʃusa.
太郎は モズク=が 好きだ。
- (47) wanja irabutʃa:nu saʃimi=ga kamiɸusan.
俺は イラブチャーの 刺身=が 食べたい。

〈評価の対象〉

- (48) ʔja:ja sunui=qaru maʃiri:.. saʃimi=qaru maʃiri.
お前は モズク=が いい? 刺身=が いい?

8.1.2.3 側面

ga 格の名詞は、述語にさしだされる特性を持つ主語の〈側面〉を表す。

- (49) taro:ja mi:=ga su:tu ju ni:jon.
太郎は 目=が お父さんと よく 似てる。
- (50) hanakoja tʃira=ga amma:ke ju: ni:jon.
花子は 顔=が 母さんに よく 似てる。

8.1.2.4 所有者

ga 格の名詞は、連体修飾語として働き、あとに続く名詞の〈所有者〉を表す。

- (51) unu kutsuja taro:=ga kutsuru jairui:
この 靴は 太郎=の 靴なのか？

8.1.3. nu 格

島尻方言の nu 格の名詞は、連体修飾語として働き、〈所有者〉、〈属性〉を表す。

8.1.3.1 所有者

nu 格の名詞は、連体修飾語として働き、あとに続く名詞の〈所有者〉を表す。

- (52) agju:rai, kadzuko=nu ja:hara kiuiga idzjonro:
アギューライ、カズコ=の 家から 煙が 出てるよ。

8.1.3.2 属性

nu 格の名詞は、連体修飾語として働き、あとに続く名詞の〈特性〉〈材料〉〈所属〉〈内容の指定〉などの〈属性〉を表す。

〈特性〉

- (53) A : anu taki takahanu, makuru=nu tfu:ja da:nu tfu:ga.
あの 目が 大きくて、真っ黒=の 人は どのの 人か？

B : anu tfu:ja wagan wakaranu tfu:
あの 人は 私も 分からない 人

- (54) urija inaguuttu=nu tfo:re:nu mun jasa.
それは 女=の 兄弟の ものだぞ。

〈所属〉

- (55) jamatu:nu do:butsujenne dzo:ja kirin uje:, midzurahattassa.
本土の 動物園に ゾウや キリン 居て、珍しかったなあ。

- (56) watta: ware:ja φu:dzu tfu:gakku:=nu jinjinke natan.
うちの 子供は 去年 中学校=の 先生に なった。

〈内容の指定〉

- (57) ho:nensai=nu tutfine:ja hanji:mari mo:tan.
八月踊り=の 時には 婆さんまで 踊った。

- (58) itfantuga. haku=nu nahane: mandzu:ga tfassa ante omojo:
どうだ、箱=の 中に 饅頭が いくつ あると 思うか？

- (59) je: mitfi=nu mannahaja abunahatu, mitfinu juwakara attfe: ike:
おい、道=の 真ん中は 危ないから、道の 端から 歩いて 行け。

8.1.4. ke:格

島尻方言の ke:格の名詞は、直接対象、間接対象の補語、状況語として働き、〈相手〉、〈態度の対象〉、〈関係の相手=対象〉、〈くっつけるところ〉、〈ゆくさき〉、〈ありか〉、〈原因〉を表す。

8.1.4.1 相手

ke:格の人名詞が直接対象、間接対象の補語として働き、動作の〈相手〉を表す。
〈直接対象〉

(60) mitʃine jo:gakko:nu ko:tʃo:sense:=ke itʃatan.
道で 小学校の 校長先生=に 会った。

(61) uttu:ga amma:=ke: amaje attsu:tan.
妹が お母さん=に 甘えて いた。

〈間接対象〉

(62) kadzukotu junu kutsu hanako=ken koje: turuʃumi.
カズコのと 同じ 靴を 花子=にも 買って やろうか。

(63) tara:ja uttu:=ke kwa:ʃi wakkije: turuʃan.
太郎は 弟=に お菓子を 分けて あげた。

8.1.4.2 態度の対象

ke:格の生き物名詞、物名詞が直接対象の補語として働き、心理的な態度を表す動詞と組み合わさり、〈対象〉を表す。

(64) juru mitʃi attsu:nu tutʃija habu=ke ki: tʃikiri:jo:.
夜 道を 歩く 時は ハブ=に 気を つけるよ。

(65) bjoinne ware:ga tʃu:ʃa=ke: uturaha ʃu:tan.
病院で 子供が 注射=に 怯えていた。

8.1.4.3 関係の相手=対象

ke:格の人名詞、場所名詞が補語として働き、主語にさしだされる人や場所に対する〈関係の相手=対象〉を表す。

(66) hanakoja tʃiraga amma:=ke ju: ni:jon.
花子は 顔が 母さん=に よく 似てる。

(67) ma:ja u:mi:=ke: tʃikaha:tu, ju:ga ma:han.
ここは 海=に 近いから、魚が うまい。

8.1.4.4 くっつけるところ

ke:格の物名詞が間接対象の補語として働き、くっつけ動詞と組み合わさり、〈くっつけるところ〉を表す。

(68) tamme:ga hanadʒi=ke sa:ʒi matʃon.
お爺さんが 頭=に タオルを 巻いてる。

(69) a:je, kabi=ke empitsune:ru katʃanro:.
アーイー 紙=に 鉛筆で 書いたよ。

8.1.4.5 ゆくさき

ke:格の空間名詞が直接対象の補語として働き、移動動作の〈ゆくさき〉を表す。

(70) ma:gataga surije u:mi=ke uri:je indzunro:.
孫たちが 揃って 海=へ 下りて いくよ。

(71) ma:ga dzo:kara ja:nu naha=ke je:tan.
猫が 外から 家の 中=へ 入った。

(72) watta: su:ja kisa hataki=ke: ndʒan.
私の 父は もう 畑=へ 行った。

(73) A : uttuja ma:=ke ndʒaga.
妹は どこ=へ 行ったのか？

B : ko:jenne uitanro:.
公園に いたよ。

8.1.4.6 ありか

ke:格の場所名詞が状況語として働き、存在、滞在の〈ありか〉を表す。

(74) A : uttuja ma:=ke ndʒaga.
妹は どこ=へ 行ったのか？

B : ko:jen=ke uitanro:.
公園=に いたよ。

(75) A : ?ja:ja itʃikara naitʃi=ke: tʃo:ga.
お前は いつから 本土=に 来てるのか？

B : nidʒu:nemme:kara tʃo:nro:.
二十年前から 来てるよ。

8.1.4.7 原因

ke:格の現象名詞が状況語として働き、動作や状態を引き起こした〈原因〉を表す。

(76) dʒira:ja ami=ke indaje:, ja:ke ke: tʃan.
次郎は 雨=に 濡れて、家へ 帰って 来た。

8.1.4.8 述語の要素

ke:格の名詞が nain (なる) と組み合わさって、連語述語の要素となる例も確認できた。

(77) watta: ware:ja ʃu:dzu tʃu:gakku:nu ʃinʃin=ke natan.
うちの 子供は 去年 中学校の 先生=に なった。

(78) senkjone su:ga kutʃon=ke natan.
選挙で 父が 区長=に なった。

8.1.5. ne:格

島尻方言の ne:格の名詞は、間接対象の補語、連用修飾語、状況語として働き、〈とりつけるところ〉、〈受身の相手=動作の主体〉、〈材料〉、〈道具〉、〈手段〉、〈ありか〉、〈動作や状態がなりたつ場所〉、〈動作や状態がなりたつ時〉、〈原因〉を表す。

8.1.5.1 とりつけるところ

ne:格の空間名詞、物名詞が間接対象の補語として働き、とりつけ動作の〈くっつけるところ〉を表す。

(79) agju:rai, ja:nu ui=ne: u:ru ʃuʃo:sa:.
アギューライ 家の 上=に 布団を 干してるぞ。

(80) matsurinu posuta:ja ko:minʃan=ne hajotanro:.
祭の ポスターは 公民館=に 貼ってたよ。

8.1.5.2 受身の相手＝動作の主体

ne:格の人名詞が間接対象の補語として働き、〈受身の相手＝動作の主体〉を表す。

- (81) dʒira:ja tintʃama he:, tamme:=ne megeraritan.
 次郎は いたずらを して、爺さん=に 叱られた。

8.1.5.3 材料

ne:格の物名詞が間接対象の補語として働き、生産活動の〈材料〉を表す。それなしでは、生産活動の結果物が生まれえないという点で、なくてはならない文の部分である。

- (82) tamme:ga wara=ne dzo:ri anan.
 お爺さんが 藁=で 草履を 編んだ。
- (83) dʒira:ja kabi=ne tsuru tsukutan.
 次郎は 紙=で 鶴を 作った。※「=hara,=he:」は不可。

8.1.5.4 道具

ne:格の物名詞が間接対象の補語として働き、動作に用いる〈道具〉を表す。ne:格の物名詞が〈道具〉を表す場合では、「書く」「言う」ことを支えるためになくなくてはならないものから、「叩く」のように、動詞そのものが実現するにあたって、それがなくても十分なものまである。

- (84) unu je: borupen=ne:ru katʃi.
 その 絵 ボールペン=で 書いたの？
- (85) a:je, kabike empitsu=ne:ru katʃanro:.
 いや、紙に 鉛筆=で 書いたよ。

8.1.5.5 手段

ne:格の物名詞が間接対象の補語として働き、移動のための〈手段〉を表す。

- (86) ma:mari nu:=ne tʃa:. itʃantu he: tʃan.
 ここまで 何=で 来たの？ どう やって 来たの？
- ma:marija basu=ne:ru tʃanro:.
 ここまでは バス=で 来たよ。

8.1.5.6 ありか

ne:格の場所名詞が間接対象の補語としてはたらき、人、生き物、物の〈ありか〉を表す。

- (87) A : uttuja ma:ke ndʒaga.
 妹は どこへ 行ったのか？
 B : ko:jen=ne uitanro:.
公園=に 居たよ。
- (88) kuʒimari tara:tu ko:miŋkan=ne uitan.
 9時まで 太郎と 公民館=に 居たよ。
- (89) gajo:dʒa=neja inoʃiʃiga untero:.
ガヨウ山=には イノシシが いるそうだよ。
- (90) itʃantuga.hakunu naha=ne: mandʒu:ga tʃassa ante omojo:.
 どうだ。箱の 中=に 饅頭が いくつ あると 思うか？
- (91) ane, wa: kutsuja da:=ne ajo:.

おい、俺の 靴は どこ=に ある？

8.1.5.7 動作や状態がなりたつ場所

ne:格の場所名詞が状況語として働き、〈動作や状態がなりたつ場所〉を表す。

(92) bjoin=ne ware:ga tʃu:ʃake: uturaha φu:taN.

病院=で 子供が 注射に 怯えていた。

(93) hanʃi:ja nibandza:=ne terebi intʃe: attsuN.

婆さんは 二番座=で テレビを 見て いる。

(94) amakiŋge:.. ja:nu naha=ne aʃibaŋke:.. dzo:ke ndʒe:, aʃibe:..

アマキングー、家の 中=で 遊ぶな。 表へ 行って、遊べ。

8.1.5.8 動作や状態がなりたつ時

ne:格の時間名詞、出来事名詞が状況語として働き、〈動作や状態がなりたつ時〉を表す。

(95) hatʃiqatʃi=ne: ke: tʃuntʃa:..

八月=に 帰って 来るそうだ。

(96) ho:nensainu tutʃi=ne:ja hanʃi:mari mo:taN.

八月踊りの 時=には 婆さんまで 踊った。

(97) senkjo=ne su:ga kutʃoŋke natan.

選挙で 父が 区長に なった

(98) ʃi:dza:ja undo:kai=ne itʃibaŋke natan.

兄は 運動会=で 一番に なった。

8.2.5.9 原因

ne:格の現象名詞が状況語として働き、動作や状態を引き起こした〈原因〉を表す。

(99) A : mijaginu tamme: gandzu:i:.

宮城の お爺さん 元気か？

B : φune:ra bjo:ki=ne: ma:tʃaN.

この間 病気=で 亡くなった。

(100) dʒira:ja ami=ne indaʒe:, ja:ke ke: tʃaN.

次郎は 雨=に 濡れて、家へ 帰って 来た。

8.1.6. he:格

島尻方言の he:格の名詞は、間接対象の補語、連用修飾語、状況語として働き、〈材料〉、〈道具〉、〈手段〉、〈形態=量〉、〈原因〉を表す。

8.1.6.1 材料

he:格の物名詞が間接対象の補語として働き、生産活動の〈材料〉を表す。

(101) tamme:=ga wara=he: dzo:ri anaN.

お爺さんが 藁=で 草履を 編んだ。

8.1.6.2 道具

he:格の物名詞が間接対象の補語として働き、動作に用いる〈道具〉を表す。he:格の物名詞が〈道具〉を表す場合でも、ne:格と同じように、「書く」ことを支えるためになくは

ならないものから、「叩く」のように、動詞そのものが実現するにあたって、それがなくても十分なものまである。

(102) unu je: borupen=he:ru katʃi.
その 絵 ボールペン=で 書いたの？

(103) dʒira:ga bundʒira=he sanra: tatatʃan.
次郎が 棒=で 三郎を 叩いた (殴った)。

8.1.6.3 手段

he:格の物名詞、抽象名詞、数量名詞が間接対象の補語として働き、移動動作、活動のための〈手段〉を表す。

(104) arija ki:sa takuʃi=he: tʃan.
あいつは さっき タクシー=で 来たよ

(105) uriya ho:gen=he: nu:te jo:.
これは 方言=で 何と 言うの？

8.1.6.4 形態=量

he:格の数量名詞が連用修飾語として働き、〈形態=量〉を表す。

(106) nimutsuga umbahanu, t'ei=he: mutʃe ndʒan.
荷物が 重たくて、二人=で 持って 行った。

8.1.6.5 原因

he:格の現象名詞が状況語として働き、動作や状態を引き起こした〈原因〉を表す。

(107) A : nu:hara kaʒi nattakaja.
何から 火事に なったのかな。
B : agju:rai, tabakunu hi=he: kaʒi natantʃa:.
アギューライ、煙草の 火=で 火事に なったそうだ。

8.1.7. hara 格

島尻方言の hara 格(kara 格)の名詞は、直接対象、間接対象の補語、状況語として働き、〈出所〉、〈とりはずすところ〉、〈相手〉、〈材料〉、〈手段〉〈出発場所〉、〈うつりうごく場所〉、〈動作や状態がはじまる時〉、〈原因〉を表す。音声的に kara~hara で揺れている。

8.1.7.1 出所

hara 格の場所名詞、物名詞(空間性を持った)が補語として働き、述語にさしだされる出現現象の持主、離れる移動動作の持主の〈出所〉を表す。

(108) agju:rai, kadzokonu ja=hara kiuiiga idʒijonro:.
アギューライ、カズコの 家=から 煙が 出てるよ。

(109) ko:tʃo:ʃinʃiga basu=hara urije: tʃan.
校長先生が バス=から 降りて きた。

8.1.7.2 とりはずすところ

hara 格の空間・場所名詞、物名詞が間接対象の補語として働き、とりはずし動作の〈とりはずすところ〉を表す。

- (110) ki:ja anu jama=kara tuje: tʃanro:.
木は あの 山=から 取って 来たよ。
- (111) uradza=kara kusui tui φun.
裏座=から 葉を 取って 来る。
- (112) sa:ruga mikannu ki=:hara/kara mi: tuitan.
サルが みかんの 木=から 実を 取った。

8.1.7.3 相手

hara 格の人名詞が間接対象の補語として働き、やりもらい動作の〈与え手〉、〈受身動作の相手=動作の主体〉などの〈相手〉を表す。

〈与え手〉

- (113) hanʃi:=kara/hara otofidama tutan.
お婆さん=から お年玉を もらった。
- (114) amna:=kara sa:dʒi tuje:, du: φutʃan.
お母さん=から タオルを もらって、体を 拭いた。

〈受身動作の相手=動作の主体〉

- (115) dʒira:ja tamme:=kara jagamahanu. iφigwa damare:te mugeraritan.
次郎は 爺さん=から 「やかましい。少し 黙れ」と 怒鳴られた。

8.1.7.4 材料

hara 格の物名詞が間接対象の補語として働き、生産活動の〈材料〉を表す。

- (116) teruʃimaja i:nuka:nu midʒi=kara/hara tsurarin.
照島は イヌカーの 水=から 作られる。
- (117) to:φuja ma:mi=kararu tsukunro:.
豆腐は 大豆=から 作るよ。

8.1.7.5 手段

hara 格の物名詞が間接対象の補語として働き、移動動作のための〈手段〉を表す。

- (118) arija ki:sa takuʃi=kara/hara tʃan.
あいつは さっき タクシーで 来た。
- (119) matʃike takuʃiŋkanja basu=hara ike:.
町へ タクシーよりは バスで 行け。

8.1.7.6 出発場所

hara 格の空間・場所名詞が状況語として働き、移動動作の〈出発場所〉を表す。

- (120) ma:ga dzo:=kara/hara ja:nu nahake je:tan.
ネコが 外=から 家の中へ 入った。
- (121) amanu burokku=kara tune:, sa: uije: ne:N.
あそこの ブロック=から 飛んで(飛び降りて)、足を 折って しまった。

8.1.7.7 うつりうごく場所

hara 格の空間・場所名詞が状況語として働き、移動動作の〈うつりうごく場所〉を表す。

- (122) maffira ga:tuiga tin=hara tuno:sa.
 真っ白な 野鳥が 空=を 飛んでるぞ。
- (123) je: mitfinu mannahaja abunahatu, mitfinu fuwa=kara attfe: ike:.
 おい、道の 真ん中は 危ないから、道の 傍=を 歩いて 行け。

〈うつりうごく場所〉と〈出発場所〉の2つの側面を持った派生的な意味として〈経由場所〉を認めることが出来る。〈経由場所〉は、動作主体が、うつりうごいて通り、離れていく場所を意味している。

- (124) jakubaharaja unu mitfikara tfikahatu, unu mitfi=hara ike:.
 役場からは その 道から 近いから、その 道=を 行け。

8.1.7.8 動作や状態が始まる時

hara 格の時間名詞が状況語として働き、〈動作や状態が始まる時〉を表す。

- (125) su:ja atfa=kara kutfo:nu figutu φun.
 父は 明日=から 区長の 仕事を する。
- (126) taruja φudzu=kara jamatunke: ndzo:sa.
 太郎は 去年=から 本土へ 行っている。
- (127) A : ?ja:ja itfikara naitfike: tfo:ga.
 お前は いつから 本土に 来てるのか？
 B : nidzu:nemme:=kara/hara tfo:nro:.
20年前=から 来てるよ。

8.1.7.9 原因

hara 格の現象名詞が状況語として働き、動作や状態を引き起こした〈原因〉を表す。

- (128) A : nu:hara kađzi natakaja.
 何から 火事に なったのかな。
 B : agju:rai, tabakunu hi=hararu kađzi natantja:.
 アギューライ、煙草の 火=から 火事に なったって。

8.1.8. mari 格

島尻方言の mari 格の場所名詞や時間名詞は、間接対象の補語、状況語として働き、〈到達場所〉、〈動作や状態がおわる時〉を表す。

8.1.8.1 到達場所

mari 格の場所名詞は間接対象の補語として働き、移動動作の〈到達場所〉を表す。

- (129) A:iheja=marija φunikararu tfi:.
伊平屋=までは 船で 来たのか？
 B : [冗談で返す]
 a:i, je:dze: tfaN.
 アイ、泳いで 来た。
- (130) ma:=mari basune:ru tfi:.
ここ=まで バスで 来たのか？
- (131) A : ma:=mari nu:ne tfa: itfantu he: tfaN.

ここ=まで 何で 来たの? どう やって 来たの?
 B : ma:=marija basune:ru tʃanro:.
 ここ=までは バスで 来たよ。

8.1.8.2 動作や状態がおわる時

mari 格の時間名詞は状況語として働き、〈動作や状態がおわる時〉を表す。

- (132) kudʒi=mari tara:tu ko:miŋkanne uitan.
 9時=まで 太郎と 公民館に いたよ。
 (133) dʒikanga aitu, godʒi=mari terebi ma:ni.
 時間が あるから、 5時=まで テレビを 見ないか。

8.1.9. tu 格

島尻方言の tu 格の名詞は、直接対象、間接対象の補語、主語として働き、〈相手〉、〈仲間〉を表す。

8.1.9.1 相手

tu 格の人名詞は相互的な活動を表す動詞と組み合わせると、文の部分として直接対象の補語として働き、〈相互動作の相手〉を表す。

- (134) dʒira:ja sanra:=tu o:tan.
 次郎は 三郎=と 喧嘩した。
 (135) tʃu:ja itʃinahatu, ?ja:=tu hanafi naran.
 今日は 忙しいから、 お前=と 話 できない。

他にも、tu 格の人名詞、生き物名詞は間接対象の補語として働き、述語にさしだされる特性=関係の持主の〈関係の相手〉を表す。

- (136) taro:ja mi:ga su:=tu ju ni:jon.
 太郎は 目が お父さん=と よく 似てる。
 (137) kadzuko=tu hanakoja duʃigwa.
カズコ=と 花子は 友達だ。

8.1.9.2 仲間

tu 格の人名詞は主語として働き、動作や状態を共に行った〈仲間〉を表す。

- (138) kudʒimari tara:=tu ko:miŋkanne uitan.
 9時まで 太郎=と 公民館に いたよ。

8.1.10. kan 格

島尻方言の kan 格の名詞は、間接対象の補語として働き、〈比較の対象〉を表す。

8.1.10.1 比較の対象

kan 格の物名詞は、補語として働き、主語にさしだされる主体に対する〈比較する対象=比較の対象〉を表す。

- (139) tʃu:ja kinnu=kan hadʒi tʃu:han.
 今日は 昨日=より 風が つよい。

(140) sunui=kanja saʃimi:ja ma:hanro:.
 モズク=よりは 刺身は おいしいよ。

8.2 とりたての形式

〈とりたて〉とは、現実世界の出来事、話し合いの参加者の想定（知識）の中にある出来事と、文の対象的な内容を関係づける〈陳述的なかわり〉を表す文法的なカテゴリーである。〈とりたて〉は、文の本質的な特徴としての陳述性の構成要素であり、〈陳述的な意味〉の一つである。とりたてる対象は、文の部分（主語、補語、状況語）、つきそい文（つづけ文）全体である。標準語を島尻方言に訳していただく面接調査にて用例を得たため、なかには、とりたて助辞以外の形式がとりたてを表現する例もみられた。そのため、とりたて助辞を中心に、ここではひろく「とりたての形式」としている。島尻方言において、現在までに確認できた〈とりたて〉を表現する形は、=ja、=gaja、=N、=gan、=ru、=garu、=bike、=mari、=tanten、uppi、jatin がある。標準語のとりたて助辞との対応と意味を次の表にまとめる。

表2 島尻方言のとりたての形式と意味

島尻方言	標準語	意味
=ja	-は	対比、提題
=gaja	-は	対比
=N	-も	累加、極限、ぼかし
=gan	-も	累加
=ru	-が、こそ	特立
=garu	-こそ	排他強調
=bike	-だけ	限定
=mari	-まで	極限
=tanten	-でも	極限、例示
uppi	-ぐらい、だけ	極限、限定
jatin	-でも	極限

8.2.1 =ja

ja の形をとる単語は、〈対比〉、〈提題〉を表す。

8.2.1.2 〈対比〉

ja の形をとる単語は、同類のものごとを比べていることを前提にして、とりたてていること＝〈対比〉を表現する。平叙文、命令文に現れる。

●平叙文

(141) unu ʃimbun=ja kinnu:=nu mun. ku:=nu mun=ja uri jasa.
 その 新聞=は 昨日=の 物だ。 今日=の 物=は これだ。

(142) sunui=kanja safimi:=ja ma:hanro:.
モズク=よりは 刺身=は おいしいよ。

(143) tʃu:=ja kinnu=kan hadʒi tʃu:han=ja:.
今日=は 昨日=より 風 強い=ね。

(144) A : unu ϕ un miʃenri.
その 本 見せて。

B : naran.
できない。

A : nu:nubike:ruʃiga. tui=ja han=ro:.
見るだけだけど。取り=は しない=よ。

●命令文

(145) unu midʒi=ja numanʒke. numundero:, uri nume.
その 水=は 飲むな。 飲むなら、 こっちを 飲め。

(146) A : itʃante mugejo: ʃimuga=ja.
どう 叱ったら いいかね？

B : mi: intʃe:ru mugen=ro:.. ti:=ja dzettai indʒohe: naran=ro:.
目を見て 叱るんだ=よ。手=は 絶対 出して いけない=よ。

8.2.1.2 〈提題〉

ja の形の単語は、現実世界の出来事と比べることなく、とりたてていること = 〈提題〉を表現する。平叙文、希求文、質問文に現れる。

●平叙文

(147) tara:=ja je:go=nu ϕ un jumi ϕ un.
太郎=は 英語=の 本が 読める。

(148) hanako=ja iŋkaʃi=kara sanʃin hitʃi ϕ un.
花子=は 昔=から 三線が 弾ける。

(149) A : anu taki takahanu, makurunu tʃu:=ja da:=nu tʃu:ga.
あの 背が 高くて、 真っ黒の 人=は どこ=の 人か。

B : anu tʃu:=ja wagan wakaranu tʃu:.
あの 人=は 俺も 分からない 人だ。

●希求文

(150) wan=ja irabutʃa:=nu safimi=ga kami ϕ usan.
俺=は イラブチャー=の 刺身=が 食べたい。

●質問文

(151) taro:=ja je:go=nu ϕ un ju:ni ϕ u:mi:.
太郎=は 英語=の 本 読める？

(152) ja:=ja unu ju wakaimmi.
お前=は この 魚 分かるか。

8.2.2 =g aja

名詞に=gaja を後接させて主語をとりたてる例が 1 例のみみられた。この形をとる単語は、とりたてられた単語とほかの同類のものごとと比べていることを前提にして、とりた

てていること＝〈対比〉を表現する。平叙文に現れている。ふつうの ja との違いについては、今後の課題である。

(153) watta: ja:=nu ma:ga=gaja kundunu undzamine: udui mo:tan.
 うちの 家=の 孫=がは 今度の 海神祭で 踊りを 踊った。

8.2.3 =N

N の形をとる単語は、〈累加〉、〈極限〉、〈ぼかし〉を表現する。

8.2.3.1 〈累加〉

N の形をとる単語は、とりたてられた単語のほかに、同類のものごとがあることを前提にしてとりたてていること＝〈累加〉を表現する。平叙文、命令文、質問文に現れる。

●平叙文

(154) A : ari=bike ϕumirarijo:N.
 あいつばかり ほめられてるよ。
 B : ?ja:=N itfika ϕumirarin=jo:.
お前=も いつか ほめられるよ。

(155) A : inaguwarabi=ja kadzi no:ti.
 娘さん=は 風邪 治った？
 B : no:tafiga=jo:, tudz=N kadzi hitfan.
 治ったけどね、妻=も 風邪 ひいた。

(156) watta: tamme:=ja saki=N tabuku=N numan.
 うちの 爺さん=は 酒=も 煙草=も 飲まない。

●命令文

(157) A : ne: akkangutu, ?ja:=N iϕigwa tigane he:
 見て いないで、お前=も 少し 手伝いを して。

●質問文

(158) A : oto:=ja ku:=N saki nuno:ti.
 お父さん=は 今日=も 酒 飲んできた？
 B : ippai=bike nunutan.
 一杯=だけ 飲んできた。

8.2.3.2 〈極限〉

N の形をとる単語は、とりたてられた単語のほかに、同類のものごとがあり、想定された基準に合わせて、極端なものごとであることを前提にとりたてていること＝〈極限〉を表現する。平叙文、命令文、質問文に現れる。

●平叙文

(159) [自分の子どもの成長について話していて]

A : kisa dzi=ja katfipumi.
 もう 文字=は 書ける？
 B : warabi:=ja nama urahanu, du:=nu namae=N katfihan=ro:.

子供は まだ 幼くて、自分=の 名前=も 書けない=よ。

narahe: turahana=he:

教えて あげて=ね。

(160) kadzuko=tu junu kutsu hanako=ken koje: turuφun.

カズコ=と 同じ 靴を 花子に=も 買って やる。

(161) [いつも元気なのに、落ち込んでいるので]

A : nu:ga. geŋki nainfi:ga.

なんで? 元気 ないけど。

B : gammari he:=jo, tʃu:=ja amma=karan mugeraritan.

いたずら して=ね、今日=は、母さん=からも 叱られたんだ。

(162) A : uttu:=nu saburo:=ken usararitan.

弟=の 三郎=にも 馬鹿にされたよ。

B : na:hin ʃikkari he:.

もっと しっかり して。

(163) A : hanʃi:, ʃimbun junumbai:.

おばあちゃん、新聞 読むの?

B : gantʃo:=ga are:, gumahanu dʒi=N ju: min=ro:.

メガネ=が あれば、小さい 字=も よく 見えるんだよ。

(164) [料理のし方が分からない若者にむかって]

A : abara:i, uri=N wakaramba:i.

アバライ、これ=も 分からないの?

B : wakaran=sa:.

分からない=なあ。

A : uppigwa: watta: warabi=tanten waran=ro:.

これぐらい、うちの 子供=でも 分かる=ぞ。

(165) A : aʃibinga ingani.

遊びに 行こう!

B : hassajona:, agijo:rai, da:je, attsun kutu=N naran.

ハッサヨナー、アギョーライ、疲れて、歩く こと=も できない。

数量名詞が-Nの形をとった場合も、〈極限〉の一種を表現していると言える。

(166) A : ma:=ja hatake=ja daidʒo:buri.

そっち=は 畑=は 大丈夫?

B : jattu=jo: kisa tu:ka=N ami φu:ram=ba:jo.

そうなんだよ。もう 10日=も 雨 降ってないよ。

(167) A : tʃu:=ja tʃassa kwa:tʃa.

今日=は いくつ 釣れた?

B : tʃu:=ja t'i:tʃi=N ku:rantan.

今日は 1匹=も 釣れなかった。

不定代名詞が-Nの形をとった場合も、〈極限〉の一種を表現している。

(168) A : tʃu:=ja tʃassa kwa:tʃa.
今日=は いくつ 釣れた？

B : tʃu:=ja nu=N ku:rantan.
今日=は 何=も 釣れなかった。

(169) [忙しそうにしているので]

A : mun=ja tʃantu kano:mi.
ごはん=は ちゃんと 食べてる？

B : ai, a:riro:, ʃikama=kara nu=N kane: ne:n=sa.
アイ、そういえば、朝=から 何=も 食べて ないなあ。

A : tʃantu mun kami=ro: unu utʃi sugu to:rin=ro:.
ちゃんと ごはんを 食べる=よ。その うち 倒れる=よ。

(170) warabi=ga uro:, nu:=N ʃimun.
子供=が いれば、何=も いらぬ。

しかし、いくらか意味が異なっていると考えられるものもある。不定代名詞、疑問詞にとりたて助辞=Nが後接する場合、副詞化が進んでいて、陳述副詞、時間副詞の体系の中で分析する必要があるだろう。

(171) A : nu:=N mafijafi turahahe:.
何でも 好きなものを 選んで。

B : anfe:, uri ko:je ʃimuni.
じゃ、これ 買って いい？

(172) A : dʒira:ja itʃi=N gammaribike he: attsunro:.
次郎は いつも いたずらばかり して いるよ。

B : mugeraŋko: naransaja.
叱らないと いけないなあ。

8.2.3.3 〈ぼかし〉

Nの形をとる単語は、とりたてられた単語のほかに、現実世界のものごとが漠然とあるのを前提にして、とりたてていること=〈ぼかし〉を表現する。

(173) untunu kutu ʔje:, ʔja:=N dikiran=saja:.
こんな こと 言って、お前=も 意地悪だ=なあ。

8.2.4. =g an

ganの形をとる単語は、とりたてられた単語のほかに、同類のものごとがあることを前提にしてとりたてていること=〈累加〉を表現する。平叙文に現れる。

(174) A : anu taki takahanu, makurunu tʃu:=ja da:nu tʃu:ga.
あの 背が 高く、真っ黒の 人=は どの 人か。

B : anu tʃu:=ja wa=qan wakaranu tʃu:.
あの 人=は 俺=がも 分からない 人だ。

8.2.5. =ru

ruの形をとる単語は、ほかの同類のものごとがあるとせず、あるいは、同類のものごとを排他せずに、特に目立たせてとりたてていること＝〈特立〉を表現する。平叙文、質問文（肯否たずね文）に現れている。疑問詞たずねの文には現れなかった。また、とりたてる文の部分は、主語でも補語でも述語でもよい。

●平叙文

(175) A : ʔja:=ja sunuigaru mafiri:. safimigaru mafiri.
お前=は モズクが いい？ 刺身が いい？

B : safimi=ga=ru mafisa.
刺身=が いいぞ。

(176) unu je: borupen=ne:=ru katfi.
その 絵 ボールペン=で 書いたのか。
a:je, kabi=ke empitsu=ne:=ru katfan=ro:.
いや、紙=に 鉛筆=で 書いた=よ。

(177) ma:=mari nu:=ne tfa:. itfantu he: tfan.
ここ=まで 何=で 来たの？ どう やって 来たの？
ma:=marija basu=ne:=ru tfan=ro:.
ここ=までは バス=で 来たよ。

(178) to:φu=ja ma:mi=kara=ru tsukun=ro:.
豆腐=は 大豆=から 作る=よ。

(179) A : nu:=hara kadzi natakaja.
何=から 火事に なったのかな。
B : agju:rai, tabaku=nu hi:=hara=ru kadzi natan=tfa:.
アギューライ、煙草=の 火=から 火事に なった=って。

(180) A : ja: bo:fi:=ja duruga=he:.
お前の 帽子=は どれだ。
B : uri=ru jan=ro:.
それだ=よ。

(181) unu kasa:=ja: wa: mun=ru jan=ro:ja.
その 傘=は 俺の 物だよね。

(182) A : ari=ja jakuba:ruri:.
あれ=は 役場か？
B : anan. ari=ja gakko:=ru jan=ro:.
ちがう。あれ=は 学校だ。
to:, gakko:=nu fiwa:=ne aifi:=ru jakuba=ro:.
トー、学校=の 傍=に あるのが 役場だ=よ。

(183) A : itfante mugejo: fimuga=ja.
どう 叱ったら いいかね？
B : mi: intfe:=ru mugen=ro:.. ti:=bike:ja dzettai indzohe: naran=ro:.
目を 見て 叱るんだ=よ。手=だけは 絶対 出しては いけない=よ。

●質問文（肯否たずね）

(184) A : ja:=ja sunui=ga=ru mafiri:. safimi=ga=ru mafiri.
お前=は モズク=が いい? 刺身=が いい?

B : safimi=garu mafisa.
刺身が いいぞ。

(185) unu je: borupen=ne:=ru katfi.
その 絵 ボールペン=で 書いたのか。
a:je, kabi=ke empitsu=ne:ru katfan=ro:.
アイエー、紙=に 鉛筆=で 書いた=よ。

(186) A:ihejamarija φunikara=ru tfi:
伊平屋までは 船で 来たのか?

B : [冗談で返す]
a:i, je:dze: tfan.
アイ、泳いで 来た。

(187) taro:., attfinga=ru indzuri.
太郎 歩きに 行くのか

(188) unu φurofiki=ja ja: mun=ru jairui.
この 風呂敷=は お前の 物か。

(189) unu kutsu=ja taro:=ga kutsu=ru jairui.
この 靴=は 太郎=の 靴なのか。

8.2.6 =g aru

garu の形をとる単語は、とりたてられた単語のほかにも同類のものごとがあり、その同類のものごとを排他して特に目立たせていることを前提にして、とりたてていること＝〈特立〉を表現する。質問文(同意要求文)に現れている。

(190) anu inagwa:=garu φunto:nu tfuraka:gi jan=ja:.
あの 娘=こそ 本当の 美人だ=ね。

8.2.7 =bike

bike(bika)の形をとる単語は、同類のものごとがある中で、ひとつのものごとについて限定していることを前提にしてとりたてていること＝〈限定〉を表現する。平叙文、質問文に現れている。音声的なヴァリエーションとして bika の形があらわれる。

●平叙文

(191) A : ari=bike φumirarijo:n.
あいつ=だけ ほめられて いるよ。

B : ?ja:=N itfika φumirarin=jo:.
お前=も いつか ほめられるよ。

(192) [生きていく上で必要なものは何か聞かれたとき]

saki=bike aro:., nu:=N jimun.
酒=さえ あれば、 何=も いらぬ。

- (193) kadzuko=ja budo:=nu sani=bike sititan.
カズコ=は ぶどう=の 種=だけ 捨てた。
- (194) jasai kamaŋgutu, niku=bike kane attfi:, kuje:n=ro:.
野菜を 食べないで、肉=だけ 食べて いると、太る=ぞ。
- (195) [宝くじがあたったことを内緒にしたいので]
A : kunu hanafi=ja ta:ŋ=ke jan=ro:.
この 話=は、 誰にも 言うな=よ。
B : fi:dza:=bike:ke je:N fimuni.
兄ちゃん=だけに 話しても いい？
A : a:i, jaguna=keN jan=ro:.
いや、家族=にも 言うな=よ。
- (196) A : asasa: ma:=ne ujo:.
セミは どこ=に いる？
B : anu ki=bikene tumajonu gutu aifiga. nuga=ja.
あの 木=だけに とまって いるけど。 何でかね？
- (197) A : je: ne:nri. u:mi=nu i:=bike ami=ga φu:joN.
わ！ 見て！ 海=の 上=だけ 雨が 降っている。
B : ma:=mari tsu:ga=ja.
こっち=まで 来るか=な？
A : φu:hani. hadzi=ga tfigaifiga.
来ないよね。風=が ちがうんだけど(風向きがちがう)。
- (198) A : oto:=ja ku:=N saki nuno:ti.
お父さん=は 今日=も 酒 飲んだ？
B : ippai=bike nunutan.
一杯=だけ 飲んだ。

●質問文

- (199) A : nu:ga taro=baka: ro:ka=ke: tatfo:ru.
何で 太郎=だけ 廊下=に 立っているの？
B : tfikoku he:, takaha:rije:ru=ro:.
遅刻を して、 立たされてるんだ=よ。

8.2.8 =mari

mari の形をとる単語は、とりたてられた単語のほかに、同類のものごとがあり、想定された基準に合わせて、極端なものごとであることを前提にとりたてていること＝〈極限〉を表現する。平叙文に現れる。

- (200) ho:nensai=nu tutfi=ne:ja hanfi:=mari mo:tan.
八月踊り=の 時=には 婆さん=まで 踊った。
- (201) A : ami=nu φujo:tabassaja:.
雨=が 降ってたんだなあ。
B : a:sajo:, ami=ne pantsu=mari indaje ne:N.

アーサヨー、雨=で パンツ=まで 濡れて しまった。

(202) dʒiro:=ja hamaje:, fatʃo:=mari natan.

次郎=は 頑張って、社長=まで なった。

8.2.9 =tanten

tanten の形をとる単語は、〈極限〉、〈例示〉を表す

8.2.9.1 〈極限〉

tanten の形をとる単語は、とりたてられた単語のほかに、同類のものごとがあり、想定された基準に合わせて、極端なものごとであることを前提にとりたてていること＝〈極限〉を表現する。平叙文、命令文に現れる。

●平叙文

(203) [料理のし方が分からない若者にむかって]

A : abara:i, uri=N wakaram=ba:i.

アバラーイ、これ=も 分からないの？

B : wakaran=sa:.

分からない=なあ。

A : untunu kutu watta: warabi=tanten waran=ro:.

こんな こと、うちの 子供=でも 分かる=ぞ。

(204) untunu mun, in=tanten kaman=ro:.

こんな もの、犬=でも 食べない=よ。

(205) kuruma=ga are:, ma:=ke=tanten ingarinʃigaja.

車=が あれば、どこ=にでも 行けるのになあ。

(206) A : taro:=ja ʃogatʃi ke: tʃummi.

太郎=は 正月 帰って くるって？

B : taro:=ja ʃigutu=ga itsunahanu, ʃo:qatʃi=tanten ke:ʃuraran ʃu:dʒi jassa.

太郎=は 仕事=が 忙しくて、正月=でも 帰れない みたいなんだよ。

●命令文

(207) tʃikarariʃi=ja nu:=tanten tʃikare:.

使えるの=は、何=でも 使え。

tanten の形は、さらに進んで、〈ゆずり〉条件的なつきそい文の述語の形にまでなっていると考えられる。

(208) A : ja: uje:=tanten, daigaku=ke ikanʃun=ro:.

家を 売って=でも、大学=に 行かせる=よ。

8.2.9.2 〈例示〉

tanten の形をとる単語は、とりたてられた単語が、同類のものごとと同じく、選択肢、可能性の一つであることを前提にとりたてていること＝〈例示〉を表現する。平叙文、質問文に現れる。

●平叙文

(209) saki=ja u:ɕi=kara=tantɛN tsukurarinro:.
 お酒=は サトウキビ=からでも 作れるよ。

●質問文

(210) A : tu:sagara tʃo:nu munu. tʃa:=tantɛN numanahe:.
 遠くから 来たのに。 お茶=でも 飲まない？

B : nipe:de:biru.
 ありがとうございます。

8.2.10 uppi

uppi の形をとる単語は、とりたてられた単語のほかに、同類のものごとがあり、想定された基準に合わせて、極端なものごとであることを前提にとりたてていること＝〈極限〉を表現する。平叙文に現れている。uppi 形の単語をもつ文は、話し手の態度として、〈皮肉〉〈なじり〉のような《意味合い》を持っている。

(211) [料理のし方が分からない若者にむかって]

A : abara:i, uri=N wakaram=ba:i.
 アバラーイ、これも 分からない=の？

B : wakaran=sa:.
 分からない=なあ。

A : uppiqwa: watta: warabi=tantɛN waran=ro:.
これぐらい、うちの 子供=でも 分かる=よ。

〈限定〉を表していると考えられる用例も、確認できた。

(212) kane: nuinu uppijara:, inmaja:=tu junu munru=ro:.
食べて 寝る だけなら、 犬猫=と 同じ ものだ=よ。

8.2.11 jatɪN

jatɪN の形をとる単語は、とりたてられた単語のほかに、同類のものごとがあり、想定された基準に合わせて、極端なものごとであることを前提にとりたてていること＝〈極限〉を表現する。平叙文に現れる。

(213) matsuri=nu hi:=ja juru jatɪN hanajatʃo:N.
 祭=の 日=は 夜でも 賑やかだ。

9. 「おおきなかぶ」伊平屋島島尻方言版

本節では、童話「おおきなかぶ」を伊平屋島島尻方言に訳したものを報告する。グロスの略号は巻末を参照されたい。

(1) まぎへーぬ かぶ
 “magihe:-nu kabu”
 大きい-ADN カブ
 「おおきなかぶ」

(2) たんめー=が かぶ ’ういーたん。
 tanme:=ga kabu ?wi:-ta-n.
 おじいさん=NOM カブ.ACC 植える-PST-IND
 おじいさんがかぶを植えた。

(3) ’あまはぬ ’あまはぬ かぶ=け なれー。
 ?amaha-nu ?amaha-nu kabu=ke nar-e:.
 甘い-ADN 甘い-ADN カブ=ALL なる-IMP
 「あまいあまいかぶになれ。」

(4) まぎへーぬ まぎへーぬ かぶ=け なれー。
 magihe:-nu magihe:-nu kabu=ke nar-e:.
 甘い-ADN 甘い-ADN カブ=ALL なる-IMP
 おおきなおおきなかぶになれ。」

(5) ’あまはぬ げんき まんのーぬ
 ?amaha-nu genki mann-o:-nu
 甘い-ADN 元気 たくさん-PROG-ADN
 あまいげんきのよい

(6) でいてーん まぎはぬ かぶ=が んじ ちゃん。
 dite:n magiha-nu kabu=ga nz-i cj-a-n.
 とても 大きい-ADN カブ=NOM 出る-SEQ 来る-PST-IND
 とてつもなくおおきいかぶがでてきた。

(7) たんめー=や かぶ ぬずんて ひちゃん。
 tanme:=ja kabu nuz-u-nte hi-cja-n.
 おじいさん=TOP かぶ.ACC 抜く-NPST-QUOT する-PST-IND
 おじいさんはかぶをぬこうとした。

- (8) 'うりひゃー！ はっ！ 'あねひゃー！
 ?urihja: ! haQ ! ?anehja: !
 INTJ INTJ INTJ
 「うんとこしょ！どっこいしょ！」
- (9) 'あんしが、 かぶ=や ぬぎらん。
 ?ansiga, kabu=ja nugir-an.
 だけど カブ=TOP 抜く-NEG
 だけど、かぶはぬけない。
- (10) たんめー=や はんしー ゆね ちゃん。
 tanme:=ja hansi: 'jun-e cj-a-n.
 おじいさん=TOP おばあさん.ACC 呼ぶ-SEQ 来る-PST-IND
 おじいさんはおばあさんをよんできた。
- (11) はんしー=が たんめー ひっぱえー、
 hansi:=ga tanme: hippa-e:,
 おばあさん=NOM おじいさん.ACC ひっぱる-SEQ
 おばあさんがおじいさんをひっぱって、
- (12) たんめー=が かぶ ひっぱえー、
 tanme:=ga kabu hippa-e:,
 おじいさん=NOM カブ.ACC ひっぱる-SEQ
 おじいさんがかぶをひっぱって、
- (13) 'ありひゃー！ 'うーねーひゃー！
 ?arihja: ! ?u:ne:hja: !
 INTJ INTJ
 「うんとこしょ！どっこいしょ！」
- (14) やしが、 かぶ=や ぬぎらん。
 'jasiga, kabu=ja nugir-an.
 けれど カブ=TOP 抜く-NEG
 けれども、かぶはぬけない。
- (15) はんしー=が 'まーがー ゆね ちゃん。
 hansi:=ga ?ma:ga: 'jun-e cj-a-n.
 おばあさん=NOM 孫.ACC 呼ぶ-SEQ 来る-PST-IND
 おばあさんが孫をよんできた。

- (16) 'まーがー=が はんしー ひっぱえー、
 ?ma:ga:=ga hansi: hippa-e:,
 孫=NOM おばあさん.ACC ひっぱる-SEQ
 孫がおばあさんをひっぱって、
- (17) はんしー=が たんめー ひっぱえー、
 hansi:=ga tanme: hippa-e:,
 おばあさん=NOM おじいさん.ACC ひっぱる-SEQ
 おばあさんがおじいさんをひっぱって、
- (18) たんめー=が かぶ ひっぱえー、
 tanme:=ga kabu hippa-e:,
 おじいさん=NOM カブ.ACC ひっぱる-SEQ
 おじいさんがかぶをひっぱって、
- (19) 'ありひゃー！ 'うねーひゃー！
 ?arihja: ! ?une:hja: !
 INTJ INTJ
 「うんとこしょ！どっこいしょ！」
- (20) やたんてん、 かぶ=や ぬぎらん。
 'jatanten, kabu=ja nugir-an.
 それでも カブ=TOP 抜く-SEG
 それでも、かぶはぬけない。
- (21) くんどー=や 'まーがー=が 'いぬ ゆね ちゃん。
 kundu:=ja ?ma:ga:=ga ?inu 'jun-e cj-a-n.
 今度=TOP 孫=NOM 犬.ACC 呼ぶ-SEQ 来る-PST-IND
 今度は孫が犬をよんできた。
- (22) 'いぬ=が 'まーがー ひちえー、
 ?inu=ga ?ma:ga: hicj-e:,
 犬=NOM 孫.ACC ひく-SEQ
 犬が孫をひいて、
- (23) 'まーがー=が はんしー ひちえー、
 ?ma:ga:=ga hansi: hicj-e:,
 孫=NOM おばあさん.ACC ひく-SEQ
 孫がおばあさんをひいて、

(24) はんしー=が たんめー ひっぱえー・・・
 hansi:=ga tanme: hippa-e:…
 おばあさん=NOM おじいさん.ACC ひっばる-SEQ
 おばあさんがおじいさんをひっばって・・・

(25) 'あんすしが、 なまなまなま、 なま！ ぬぎらん。
 ?ansusiga, namanamanama, nama! nugir-an.
 けれど まだまだまだ まだ 抜く-NEG
 だけれども、まだまだまだ、まだぬけない。

(26) 'いぬ=が まい ゆね ちえー、
 ?inu=ga mai 'jun-e cj-e:,
 犬=NOM ねこ.ACC 呼ぶ-SEQ 来る-SEQ
 犬がねこをよんできて、

(27) まい=が 'いぬ ひっぱえー、
 mai=ga ?inu hippa-e:,
 ねこ=NOM 犬.ACC ひっばる-SEQ
 ねこが犬をひっばって、

(28) 'いぬ=が 'まーがー ひっぱえー、
 ?inu=ga ?ma:ga: hippa-e:,
 犬=NOM 孫.ACC ひっばる-SEQ
 犬が孫をひっばって、

(29) 'まーがー=が はんしー ひっぱえー、
 ?ma:ga:=ga hansi: hippa-e:,
 孫=NOM おばあさん.ACC ひっばる-SEQ
 孫がおばあさんをひいて、

(30) はんしー=が たんめー ひっぱえー・・・
 hansi:=ga tanme: hippa-e:…
 おばあさん=NOM おじいさん.ACC ひっばる-SEQ
 おばあさんがおじいさんをひっばって・・・

(31) 'あちゃんてん、 かぶ=が ぬぎらん。
 ?acjanten, kabu=ga nugir-an.
 けれども カブ=NOM 抜く-NEG
 なかなか、かぶがぬけない。

- (32) ねこ=が ’えんちゅー ゆね ちゃん。
 mai=ga ?encju: ’jun-e cj-a-n.
 ねこ=NOM ねずみ.ACC 呼ぶ-SEQ 来る-PST-IND
 ねこがねずみをよんできた。
- (33) ’いぬ=が ’まーがー ひっぱえー、
 ?inu=ga ?ma:ga: hippa-e:,
 犬=NOM 孫.ACC ひっばる-SEQ
 犬が孫をひっばって、
- (34) ’まーがー=が はんしー ひっぱえー、
 ?ma:ga:=ga hansi: hippa-e:,
 孫=NOM おばあさん.ACC ひっばる-SEQ
 孫がおばあさんをひいて、
- (35) はんしー=が たんめー ひっぱえー・・・
 hansi:=ga tanme: hippa-e:…
 おばあさん=NOM おじいさん.ACC ひっばる-SEQ
 おばあさんがおじいさんをひっばって・・・
- (36) ’うりひゃー！ ’うねひゃー！
 ?urihja: ! ?unehja: !
 INTJ INTJ
 「うんどこしょ！どっこいしょ！」
- (37) やっとう、 かぶ=が ぬぎたん。
 ’jattu, kabu=ga nugi-ta-n.
 やっと カブ=NOM 抜く-PST-IND
 ようやく、かぶがぬけた。

グロス略号一覧

ACC	Accusative	対格	AND	adnominal	連体
ALL	Allative	方向格	IMP	imperative	命令
IND	Indicative	直説法	INTJ	interjection	感動詞
NEG	Negative	否定	NOM	nominative	主格
NPST	non-past	非過去	PROG	progressive	進行
PST	Past	過去	QUOT	quotative	引用
SEQ	sequential	継起	TOP	topic	主題

参考文献

- 言語学研究会編（1983）『日本語文法・連語論』むぎ書房
- 国立国語研究所（1983）『沖縄語辞典』大蔵省印刷局
- かりまたしげひさ（2016）「『あたらしい につぼんご』テキストとその解説—第6章くつつき（1）、7章くつつき（2）—」『教育国語4・14』むぎ書房
- かりまたしげひさ（2017）「琉球方言の du のとりたて性—琉球諸語に係り結びはあるか—」
- 崎山拓真・上門梨緒（2017）「伊平屋島田名方言の動詞の活用」『文化庁委託事業報告書 危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』琉球大学国際沖縄研究所
- 鈴木重幸（1972）『日本語文法・形態論』むぎ書房
- 平良尚人・備瀬百合音（2017）「沖縄県伊平屋方言の名詞の格体系」『文化庁委託事業報告書危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』琉球大学国際沖縄研究所
- 當山奈那（2015）「琉球語平安座方言の名詞の格」『国際琉球沖縄論集』第4号,琉球大学国際沖縄研究所
- 當山奈那（2017）「伊平屋島島尻方言のアスペクト・テンス・モダリティ」『国際琉球沖縄論集』第6号,琉球大学国際沖縄研究所
- 名護市史編さん委員会（2006）『名護市史本編・10 言語』名護市役所
- 日本語記述文法研究会（2009）『現代日本語の文法5 第9部とりたて第10部主題』くろしお出版
- 沼田善子・野田尚史（2003）『日本語のとりたて—現代語と歴史的変化・地理的変異』1くろしお出版
- 沼田善子（2000）「第3章 とりたて」『時・否定ととりたて』岩波書店
- 沼田善子・徐建敏（1995）「とりたて詞「も」のフォーカスとスコープ」『日本語の主題と取り立て』くろしお出版
- 野田尚史「文の階層構造からみた主題ととりたて」『日本語の主題と取り立て』くろしお出版
- 琉球方言研究クラブ（1988）「伊平屋の中止形：田名方言を中心に」『琉大方言』3
- 琉球方言研究クラブ（1989）「伊平屋方言の第三中止形」『琉大方言』4
- 琉球方言研究クラブ（2016）『うるま市与那城屋慶名の名詞の格ととりたて』
- 諸見清吉編・伊平屋村史発行委員会（1981）『伊平屋村史』伊平屋村伊平屋村 HP (<http://www.vill.ihaya.okinawa.jp>)

注記

ⁱ [鈴木重幸（1972）pp.205]